

MITの日本語のプログラムですが、特に1年生と2年生のレベルでは2つのセッションに分かれています。

1つがグラマーセッション それからもう1つがドリルセッションです。

グラマーセッションっていうのは基本的には新しいドリルのアイテムですか、パターンを紹介するドリルセッションっていうのは学生がグラマーで学んだパターンを実際にクラスの中で練習するというものです。

グラマーセッションっていうのは殆ど英語で行われますが、ドリルセッションはもう1年生のそれぞれドイツから日本語で行われる、とてもインタラクティブなセッションになっています。

グラマーセッションの準備としては学生は教科書にある文法の説明をきちんと読んで来てですね、各レッスンで新しい単語ってのが大体40から50程度あります。

それを勉強した上でクラスに来る。

それからドリルセッションてのはですね、MITではオンラインで多くのインタラクティブなエクササイズを提供してます。

そのオンライン上のエクササイズをきちんと練習して、そしてドリルセッションに望むということを学生に言っております。

1年生のドイツからですね、日本語だけで行うドリルセッションですけども、日本語だけで行うっていうのはやはり教師にとって大変難しいことなんですけども、我々がよく行くことは、イマーシブエンバイロメントを作るということで多くのビジュアルエイド、それから勿論スライドとか教材を教室の中に持ってきて、できるだけ学生がコンテキストの中で言語を学べるという環境を作っています。